

## パブリックコメント実施結果報告書

(担当課)	政策企画総室
(担当者)	中西
(連絡先)	0857-26-7651

テーマ： 食のみやこアクションプログラム（案）に関する意見募集

### ①<手段別意見応募件数> ( )内は応募者数

郵便	ファックス	電子メール	県民室・ 県民局へ	その他の 方法	計
2 (1)	0 (0)	10 (7)	3 (3)	28 (25)	43 (36)

### ②<応募意見の政策案等への反映状況>

対応状況	件数	主 な 意 見
意見や視点を反映した(一部のみ反映したものを含む)	19	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一番の元が抜けている。売るばかりでなく、自分たちが地元の食材を料理して楽しく食べると、地元の農家も潤う。鳥取はもともとある料理をおいしく食べれば、作ればいい。鳥取の人が楽しんでおいしいものを食べれば自然に人は集まるものだ。</li> <li>○地産地消、食育を推進するため、鳥取県内のデパート・スーパーなどにアンテナショップ、レストランを設置する。</li> <li>○地球にやさしい、そして専門的なことを子どものうちから家庭・地域などで学べればいいと思う。</li> <li>○生活自体にゆとりがないため、働き方についても何か対策がほしいです。</li> <li>○家庭で料理をする時間的余裕の確保。</li> <li>○食育にしろ地産地消にしろ料理をする技術が伴わなければならない。</li> <li>○朝食は家族全員で会話を交えて一緒に食べるような家庭環境をつくるのが健康的にも求められています。</li> <li>○親・子・孫世代による、郷土料理の伝承を通じ、鳥取県民の”舌”を育む。</li> <li>○創作料理を開発するのでもいいですが、伝統料理のなかにも、鳥取ブランドがたくさんあります。それは「ばあちゃんの知恵袋」、もっとばあちゃんに耳を傾けるべき。</li> <li>○最も大切なことは、地元の食材を活用すること。それに高付加価値をつけること。郷土料理は、全国に誇れるものがたくさんある。ネーミングも「方言」を活かすこと。</li> <li>○美味しい安全な食を実現するためには、きれいな自然環境、特に清らかな水・空気が重要。アクションプログラムにおいても、もっと水の重要性を強調すべき。</li> <li>○例えば札幌、博多という地名を聞いただけでラーメンを思い浮かべるように、「鳥取と聞いただけでもよだれが出る」これを最終目標にすべき。それには何でもあるより焦点を絞って、例えばカレーを核として取り組むことが必要。</li> </ul>
既に盛り込み済みの意見や視点	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>○もっと地元の農家、地元の野菜に触れたいけどそういう場所がない。鳥取には魚・野菜などずばらしい食べ物がたくさんあるのでもっと取り組んでほしい。</li> <li>○学校などでもっと農業体験をして、その食材を楽しみながらみんなが食し、おいさを共感できたらよい。</li> <li>○観光と食をセットにして、鳥取のイメージブランドを確立する。まず地元が認識すべきであるので、地産地消を給食から定着した方がよい。</li> <li>○地域の食材や農林業の魅力を発信。イベントかキャンペーンで意識付ける。また、教育や観光と結びつけて魅力を発信する。</li> <li>○食の基本を全国に発信する</li> </ul>
プログラム策定の上で参考とした意見や視点	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食のみやこ鳥取県というフレーズは大変いい。それに使用している赤い色、文字などのデザインはとてもインパクトがあつて素晴らしい。</li> <li>○食が崩壊した。家族と一緒に食事をしない。子どもの非行につながる。食は基本だ。だから、こうして食に対して行政が動き出したことは非常にいいことだ。</li> <li>○ウォーキングブームですが、健康に関心のある方は、食についても関心があるはず。そういったところにも、開催日には参加者にパンフレットを配るなどしたらいいか。</li> <li>○設問のような区分けをした取り組み方が問題で、全てを融合させるためのプロデュースが必要ではないか。</li> </ul>

<p>その他 (具体的提案)</p>	<p>6</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「鳥取応援団」を育てるための食育イベントの企画・運営のための補助事業はどうか。</li> <li>○ 県外の友人、知人、親戚に食の情報を発信するインターネットボランティアを募ってはどうか。</li> <li>○ 食の過当競争に勝つには、1番になるものに、誰もが知っている単語を付けてキャッチフレーズとし、消費者に覚えていただければならない。</li> <li>○ 物流面でバックアップする仕組み作りが必要。品目ごとではなく、地域というくりに変えた小口流通が必要。野菜や魚、肉や米、酒なども情報を一本化したパッケージ物流システム。</li> </ul>
<p>計</p>	<p>43</p>	